



## 市販薬を買うときに気をつけたいこと

市販薬は基本的に安全で誰でも買えるものですが、一部のアレルギー体質の人は注意が必要だと前に述べました。

知り合いのある男性は、軽い頭痛を覚えて薬局で解熱鎮痛剤を購入しました。初めての薬で、飲んで1時間もすると体中に赤い発疹が始め、燃えるような熱さを感じました。

その夜はほぼ眠れず、翌日病院に行ったところ、ピリンアレルギーと言われたそうです。解熱鎮痛剤に含まれていたピリン系成分による副作用ですが、アレルギーがあることに自分で気づいていない人も多く、注意が必要です。

どんな体質の人がどの成分にアレルギー反応を起こしてしまうかは、最新の研究成果をもってしても残念ながら予測できず、事前に診断することはできません。

昔は、たとえば抗生物質などに小さな試薬がついていて、事前に皮内注射をして発赤が出るかを調べるというテストもしていましたが、それでは予測できないことがわかり、今は行われていません。

アレルギーを見分ける検査法がない以上、原則は自分がどの薬でアレルギーが起るのかを、自分で覚えておくしかないのです。

いきなり市販薬を買うのではなく、まず病院で処方してもらい、飲んでみて大丈夫かどうかを確認する。あるいは症状の軽い段階で市販薬を試してみても、効果効かないか、副作用が出るか出ないかをチェックしておくことです。

病院で出してもらって副作用がないこと、あるいは自分に合うことを確認できたら、そのときの成分をメモにして残しておき、次に必要になったときに同じ成分の薬をドラッグストアで購入するというのが、安全な市販薬の使い方と言ってよいでしょう。

市販薬を使うときのもうひとつの注意点として、飲むタイミングがあります。万が一副作用が起こったときに何らかの事情ですぐに病院に行けないことがあります。先ほど紹介したピリンアレルギーの方も、夜に服用したため、ひと晩我慢